

佐土原 R C
週報



国際ロータリー第2730地区
佐土原ロータリークラブ
例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
例会場 ホテル神宮寺 0985-73-0015

まことの幸福は人助けから
Real Happiness is Helping Others

ガバナー公式訪問日

1992. 7. 31 (金) 第232回例会
1. 点 鐘
 2. ロータリーソング「奉仕の理想」
 3. 「四つのテスト」唱和
 4. 食事
 5. 会長の時間
 6. 幹事報告
 7. 各委員会報告
 8. 本坊ガバナー・アドレス
 9. 点 鐘

第231回例会記録
(1992. 7. 24)

会長の時間 岩切正司

皆さん今日は、本日は第231回例会です。前回は、本年度R Iテーマ「まことの幸福は人助けから」に関連して、「まことの幸福」について仏教上から考察してみました。本日は「人助け」について話したいと思えます。日本は開発途上国にいろいろの経済・技術援助をしていますが、その中に、例えば井戸ポンプの設置があります。ところが、そのポンプが一旦故障すると、原住民たちは修理することができずに困っているということです。折角のわが国の援助が、結果的には無駄になっているケースであろうと思います。別の例ですが、戦後の食糧難のとき、アメリカは小麦粉、乳製品、コンビーフ缶詰などの食糧援助をしてくださいました。このため、栄養失調状態にあった日本国民は救済されたのでありま

すが、その後、パン・牛乳・バター・チーズなどを主にした学校給食の普及に伴い、国民の食生活は欧米式に大きく変わってまいりました。わが国民のコメ離れによって、政府は減反措置を取らざるを得なくなり、農家に主要収入源の減少をもたらし、コメの輸入自由化要求の外圧と共に、重大な農業問題となってきております。

以上の二つの例を見ましても、「まことの幸福は人助け」とは何かということがわかります。すなわち、相手が本当に喜び、幸せになり、相手の役に立ち、しかも相手の伝統的文化や、生活に支障を及ぼさない「手助け」であることが肝要なのです。

ともすれば、私たちは援助を要請されたとき自分の都合だけを考えて、自分に不要な品物を寄付したりしがちです。相手にとって今が一番必要なのか考えることが大切ですね。仏教語では人助けについて、「浄土の慈悲」と「聖道の慈悲」とがあります。本当の人助けは、無報酬で、名誉などを要求しないものです。(要旨)

幹事報告 藤堂孝一

1. 7月31日はガバナー公式訪問です。
 - ・ガバナー・分区代理・会長・幹事・会長
 - エレクト懇談会 11:00~12:00
 - ・例会 12:30~13:30
 - ・クラブ協議会 14:00~16:00

2. 例会変更通知

- ・西都RC 8月4日 6:30~
三谷駐車場
- ・延岡RC 8月3日 18:30~
ガーデンベルズ延岡
- 8月17日 特別休会
- 8月24日 6:00~
今山大師

3. 公式訪問の際のガバナー歓迎幕は作成していないとのことです。

4. 前年度のビジター表彰を検討中です。候補者として、西都RCから4名程挙がっています。

出席報告 委員長 神宮寺 利夫

会 員 数	16名
欠 席 者 数	0名
H C 出席者数	16名
出 席 率	100%

今回は全員出席いただき、安堵しました。次回は是非頑張ってください。

☆☆☆☆☆

世の中、どこもかしこも「国際化」一色という感じがします。それでは「国際化」とは何ですか、と尋ねてみますと、大概の人々が「英語がしゃべれて、英語をしゃべっている人たちと対等な友だち関係で付き合える人」と答えてくれるのです。これでは40年前の日本人と同じで、少しも進歩がありません。

もう21世紀がすぐそこまで来ている状況です。言葉は道具でしかあり得ない時代になりました。その道具を使って何をすることができる人間なのか問われる時代なのです。

英語なんか話せなくても、自分にしかできない音楽や、陶芸や、農業や、何でもいいのです。「己れのワザ」をしっかりと身に付けた人の方がどれほど素敵な国際人になれることでしょうか、と私は思います。

国外へ出ていかずとも、沢山の異文化を抱えた人間たちと日常的に接触する機会は、どんどん増えてくるでしょう。

異なった価値観や、言葉や、皮膚の色や、生活習慣が触れ合ったときにいかなる反応を示すか、これが本来問われるべき「国際人」の中身です。

穏やかに、自分という文化を育ててくれた自分の言葉で自己を語れること、そして、違うからこそ面白いと、相手の文化に自分を開いていけること、先ずこの心根がなければだめです。

そのためには、己れという日本、つまり自分を生んでくれた故郷という「井戸」をじっくりと学習する「井の中の蛙」になることをお勧めしたいと思うのです。

(ジャーナリスト「野中ともよ」さん)

◇ ◇ ◇ ◇

●会員増強は、「奉仕」という目標を目指す歩みであります。

奉仕の目的は、優れた人間…私たちのクラブをよりよいクラブにする「特別な何か」を持っている人たち…によって達成されます。新会員を推薦して私たちのクラブの強化に助力しましょう。ロータリーを分かち合しましょう。

●ロータリー・クラブは奉仕の機会を提供する場であればなりません。しかし、適格者が新会員として推薦されないなら、奉仕活動が存在するはずはないのです。

クラブの各会員は適格者を推薦することによってロータリーを拡大することができます。

●ロータリーが発展するためには、努力を惜しまないことです。現実にはロータリアンになる前から、ロータリアンたる心構えを持っている優れた人物を探し出すことに。

